

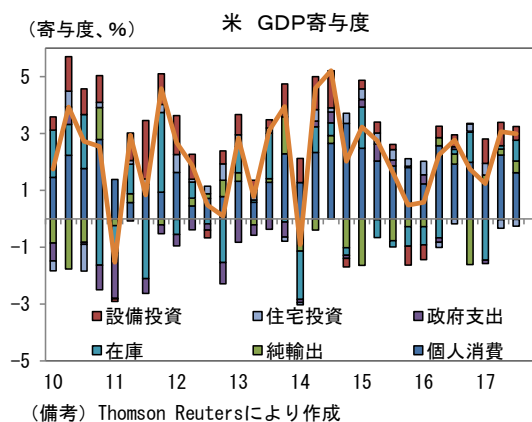
FOMCよりも次期FRB議長 ～日本では片岡委員に注目～

2017年10月30日（月）

第一生命経済研究所 経済調査部
主任エコノミスト 藤代 宏一
TEL 03-5221-4523

【海外経済指標他】

- ・米3Q実質GDP成長率は前期比年率+3.1%と市場予想（+2.6%）を上回り、前期（+3.1%）と同等の伸びを確保。個人消費が+2.4%とまずまずの伸びを示した、設備投資、純輸出など広範な項目で強さが認められた。最終需要（全体の成長率－在庫）は+2.3%へと鈍化したものの、均してみれば堅調な推移が続いている。今回の結果は12月FOMCの利上げ再開を後押ししたと言えるだろう。



【海外株式市場・外国為替相場・債券市場他】

- ・前日の米国株は続伸。米指標が好感されるなか、この日発表された米企業決算が相次いで市場予想を上回ったことから買い優勢。WT I原油は53.90ドル（+1.26ドル）で引け。
- ・前日のG10通貨、USDの強さは中位程度。米GDPに米金利上昇・USD高で反応した後、次期FRB議長にパウエル氏が有力との報道が伝わると米金利低下・USD安の展開に。USD/JPYは114を挟んで一進一退、ユーロは1.16近傍での推移となった。
- ・前日の米10年金利は2.406%（▲5.5bp）で引け。欧州債市場（10年）はドイツ（0.383%、▲5.5bp）、フランスが金利低下となった反面、イタリアが横ばい、スペインが金利上昇。対独スプレッドはスペインでワイドニングが目立った。カタルーニャ州が独立宣言をしたとの報道が嫌気された。

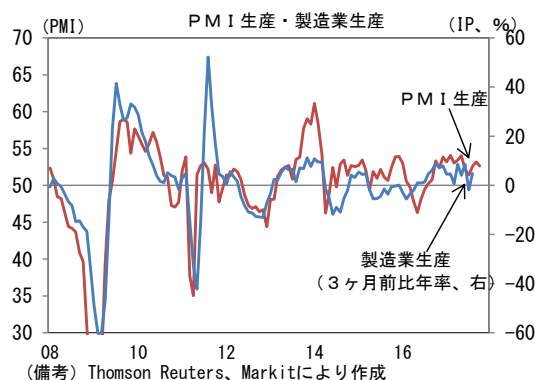
【国内株式市場・アジアオセアニア経済指標・注目点】

- ・日本株は欧米株高に追随して続伸（10：30）。
- ・9月小売売上高（商業動態統計）は前月比+0.8%と、市場予想に一致して悪天候の逆風を受けた8月から回復。前年比伸び率も+2.2%へと伸びを高めた。

< #鉱工業生産 #日銀会合 #次期FRB議長 >

- ・今週は注目点が盛り沢山となる。日本では31日に①鉱工業生産指数と、②日銀金融政策決定会合の結果が発表され、米国では③FOMC（1日）、④雇用統計（3日）が予定されている。

- ① 9月の鉱工業生産指数は前月比▲1.6%の減産がコンセンサス。8月に+2.0%と強い伸びを記録した反動が見込まれているものの、均してみれば基調は上向いている。2017年入り後は振れが大きく、1ヶ月ごとに大幅な増産と減産が繰り返されているが、振れの小さな製造業PMIでは製造業生産の確りとした足取りが映し出されており、生産予測指数でも増産基調が示されよう。10-12月期も増産を確保する可能性が高いとみて良いだろう。
- ② 日銀金融政策決定会合については[10月26日付け当レポート](#)で指摘したとおり、片岡委員が具体的な政策議案を提出するか否かが注目される。仮に議案を提出したとしても反対多数で否決される可能性が濃厚だが、ボードメンバーのコンセンサスに与える影響はゼロではないだろう。であれば「出口」を遠ざける要因の一つとして認識しておきたい。その他では声明文記載の長期国債買入れ方針について「80兆円」の文言が修正・削除されるか否かが注目される。唐突な変更は見込まれないが、念のため注意が必要だろう。



- 米国では③ FOMCが予定されている。だが、今回は政策金利（FFレート上限）が1.25%で据え置かれる公算が大きく、記者会見もないため、さほど大きなイベントにはならないと予想される。折りしも、市場の関心が次期FRB議長を巡る動向に集中していることから、2018年以降の金融政策を見据えたポジション構築が観察されるとは思えない。
- 次期FRB議長については、各種観測報道によれば今週中にも指名が行われるという。現時点ではパウエル現FRB理事の指名が最有力視されている模様だが、テラー氏を有力視する報道もあるほか、イエレン議長の再任、ウォーシュ氏の名も挙がっており、確固たるコンセンサスは存在していない。そのためパウエル氏ならハト派、テラー氏ならタカ派の金融政策を見据えた反応となる可能性が高い。
- 最後に10月雇用統計については、NFPが+31.0万人へと大幅な反発が見込まれ、平均時給は+2.7%へと0.2%ptの鈍化が見込まれている。双方とも本来は注目度の高い指標だが、9月に大きなノイズが混入した後とあって、基調把握が困難になっている。コンセンサスと多少の誤差が生じて市場が大きく反応することはないだろう。